子育てコラムNo.10

「思春期の子育て」

～『こころ』まで育てた我が子を信じて～

子どもが中学に入学する頃になると、手もかからなくなって子育てもこれで一段落と、ほっとする保護者の皆さんも多いと思います。ところが、この中学・高校時代というのはちょうど思春期にあたる難しい時期です。

今回は、思春期の子どもの特性と、その接し方についてお伝えしたいと思います。

この時期は親から精神的に自立していくので、親の干渉を嫌い、自分のことは自分で決めたいという思いから指示・命令に反発して、素直でなくなったように感じられる事があるかもしれません。

また、何を聞いても「別に」しか言わなくなったりして、今までのように子どものことがわからなくなって、さみしくなったり不安になったりするかもしれません。

では、この時期をどう見守っていけばいいでしょうか。

でも、それはまさに子どもが、思春期という子どもの成長に欠かせない正常な発達過程に入ったということで安心すべきことです。たいていの子は親と話さなくても、友達と話しています。友達の世界で自立へ向かいます。

中学生くらいの時、子ども達はよく「みんなが・・・」と言います。こう言い始めたら自立し始めたかなと思ってください。みんなといっても、自分のグループの友達だけですが、その仲間のやっていることが大事で、「みんな」のやっていることが自分の行動を決める基準になっているのです。

ポイントは、少し離れて見守り、必要とされた時には必ず応えることです。離れて見守るには、今まで以上に子どもの様子に気をつけている必要があります。

その上で、友達と仲良くやっているのであれば、子どもを信じて過干渉をしないことです。普段あまり話をしなくなったとしても、困った時、悩んだ時に子どもの方からふと声を掛けてきたりします。

そういう時が親の出番ですから、しっかり聞いて、受けとめてあげましょう。「どうしたの?」「たいへんだったね」という共感が大事です。そうすることによって、いつも味方だよというメッセージを子どもに送ることができます。

また、何かあった時、親としてはついつい正論をうるさく言いがちですが、よくないことは本人もわかっていることが多いので、くどくどと言わず一度言ったらあとは信頼して見守りましょう。子どもも親に信頼されていると思えば、裏切るようなことはできないし、何かあった時には話してみようという気になるものです。

ところで子どもに「うるさい!」と言われたことはありませんか?なんでこんなことを言う子になってしまったのかと心配したりするかも知れませんが、逆に反抗できることはいいことなのです。

親に何も言い返せない親子関係は少し見直してみる必要があります。子どもが、「自分の親に育ててもらってよかったな」と思えると、難しい時期を乗り越えていきます。

一度、子どもから見た自分は、どんな親だろうかと振り返ってみてはいかがでしょうか。

家庭教育指導員　加瀬

＊子育て相談を受け付けています。子育てで悩んだ時、困った時、不安になった時など、どんな些細(ささい)なことでも気軽にご相談ください。皆さんからのお電話をお待ちしています。

相談電話　☎(80)1456

受付時間

月・水・木・金曜日

午前9時～午後4時半まで（水曜の午後・祝祭日を除く）